

地歴科の年間授業計画（シラバス）

三重県立白山高等学校

科目	日本史 B	単位数	2単位	履修学年(年次)	2年(年次)
目標	わが国の歴史展開を世界史的視野に立って総合的に理解させ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。				
使用教科書 副読本 教材	高校日本史（山川出版）			790円	
評価の 観点 評価の 規準	(関心・意欲・態度)	(思考・判断)	(資料活用の技能・表現)	(知識・理解)	
	歴史的事象について関心と課題意識をもち、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする	歴史的事象を世界的視野に立って多角的、多面的に考えとともに、国際社会の変化に対応し、公正に判断する	諸資料を考慮して確実なものを選択し活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身につけさせるとともに、それらの過程や結果を表現する。	わが国の歴史的過程と生活及び文化の地域的な特色についての基本的な事柄を理解し、知識を身につけている。	
評価の方法	日々の授業やノート・プリントのまとめ、課題などの取り組み状況 中間・期末考査や単元のまとめの確認 問題 夏休み・風休みなどの長期休業中の課題 テーマ学習におけるレポートや発表				
学期	学習内容			学習のねらい	
1	第1章 古代社会の形成 1、日本文化のはじまり 2、農耕の開始 3、ヤマト政権と古墳 第2章 律令国家の形成 1、律令国家の成立 2、律令国家の繁栄			日本における人類の誕生を、世界の人類文化の発生と展開の中で理解させる 農耕の開始により、日本の社会が大きく変化したことについて総合的に理解させる ヤマト政権の政治機構や古墳文化、渡来人の役割について理解させる 律令国家体制の形成過程について理解させるとともに、律令国家の仕組みとそこに生きる人々の生活をできるだけ、理解させる	
2	3、律令国家の変質 第3章 貴族政治の展開 1、摂関政治 2、国風文化 3、荘園の発達と武士の台頭 第4章 武家社会の形成 1、院政と平氏 2、鎌倉幕府の成立と発展 3、鎌倉文化 4、蒙古襲来と幕府の衰退			摂関政治の特徴や変遷を理解させるとともに、律令支配国家の衰退と地方支配の仕組みを理解させる 文化の国風化が9世紀～10世紀の東アジア社会の変動の中から成立したことを理解させる 荘園・公領の実態や武士の発生と台頭など地方の動向から着目させる 武家政権の形成過程を土地支配の変化の面から理解させる 鎌倉幕府の支配機構や将軍と御家人との主従関係、公家勢力と武家勢力の二元的支配について理解させる 二度にわたる蒙古襲来によりこの時代の東アジア世界とのかかわりが日本の社会にどのような影響を及ぼしたかを理解させる	
3	第5章 武家社会の成長 1、室町幕府の成立 2、下剋上の社会 3、室町文化 4、戦国の動乱 第6章 幕藩体制の成立 1、ヨーロッパ人の来航 2、織豊政権 3、江戸幕府の成立			建武の新政の歴史的意義、及び南北朝の動乱の中で室町幕府の成立過程を理解させる 下剋上など中世社会の多様な展開の中で庶民の台頭及び無秩序な戦国の時代を理解させる 織豊政権の特色と意義、幕藩体制の特質を大航海時代といわれる世界史的背景と国内の政治・社会の動向との関連に着目し総合的に理解させる	
学習上の留意点	歴史学習の断片的な事項を暗記する結果だけでなく、その過程を重視した教材の活用、また歴史に対する関心・興味をもたせる授業を展開し、生徒の学習意欲を高める。				